

その結果、特定調達品における全社単位での調達総額の把握や価格比較ができないこととなり、同一調達品を異なる価格で調達していることや、会社全体としての調達総量を活かした交渉ができず、CRを十分に取こめていないことがある。したがって、品番体系統一化の推進は、調達品CRを推進していくうえで、必要不可欠な課題と言える。

また、品番体系は、各企業が独自に設定していることが多いため、そのままでは調達市場と対応させることができないことも、サプライヤー探索の効率性という面でネックになりかねない。

近年は、電気・電子部品を中心に業界内でも分類コードの標準化が進んでいるが、このような標準汎用品では、グローバルに活用することができるコードの設定を各種の標準化団体が推進しており、標準汎用品の使用率が高い企業については、それらのコードを活用するというのも1つの方法である。

### ●図表 4-22 国際標準コードの例

#### ・UNSPSC (United Nations Standard Products and Services Code)

UNSPSCは、あらゆる商品とサービスを4レベル(Segment, Family, Class, Commodity)の階層構造で配列した、オープンで、グローバルなコーディング規定。グローバルなマーケットプレイスで利用する、商品とサービスの両方を分類した世界で最初のコーディング規定。

UNSPSCは、UCCが正式な管理団体になり、あわせてECCMAとUNDPから両組織の統合に伴う

UNSPSC統合versionの発表が行われた。

8桁(セグメント + ファミリー + クラス + コモディティ)+2桁(オプション)

#### ・NSN ナショナルストックナンバー

(NATO Stock Number, NATO Codification Systemとも言う)

機能同等品に対するコード。NATOがコード登録すると、Supplierが自社商品をマッピングしており、DB更新がなされる仕組みとなっている。既にISO申請済み。

米国をはじめ各国政府、NATOが採用。最近、民間企業(GM)が検討中だが、NATOのニーズと民間企業で必要なバリエーションをカバーし切れていない。

13桁(Federal Supply Class(FSC)4桁 + 国別CODE 2桁 + 7桁(シリアルナンバー))

#### ・eCl@ss

EUにてまとめられている標準コード。ベースは、ドイツにあったコード体系。

8桁(セグメント + グループ + サブグループ + コモディティ)=4層の階層型分類システム。

12,000の登録キーワードが22のセグメント、366のグループ、2725のサブグループおよび10,190の商品クラスに分けられている。

eCl@ssは生産業者の購買者向けに市場構造をマップし、開発、計画、保守に関わる技術者をサポートしている。階層をたどってまたはキーワードによってアクセスすることで、専門家だけでなく普段は使用しない人でも分類を検索できる。材料やサービスの仕様を記述する属性リストが統合されているのがeCl@ss独自の特徴。

#### ・HSコード (Harmonized Commodity Description and Coding System)

国際貿易商品の分類コード。通常は6桁の世界共通コードと3桁の各国コードで構成。現在約200の国と地域が使用。

#### ・GPC (Global Product Classification)

流通系。工場MRO品はカバーされていない。

UNSPSCを参考に生成。UNSPSCとの統合化の動きもある。Mtl. Code付加して運用できる。